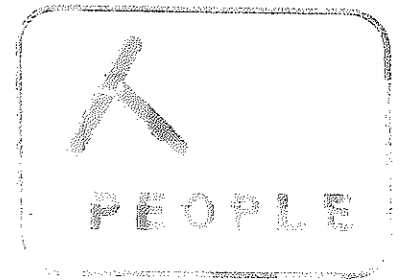


広報しろね

S·h·i·r·o·n·e

1999.6.1
No.547



民謡で地域おこし



根岸農道開通式



笠原 彰さん

四月十日、「根岸農道」が開通しました。開通式をにぎわせたのは、地域を歌った『山崎おどり』の民謡流し。「最初は、知り合いに作詞・作曲家がいて、地域を盛り上げる歌でも作ってくればひとつ歌おうか、という感じだったんです」と語る笠原彰さん（五十七歳・山崎興野）は、山崎興野の自治会長で、二十年ほど前から山崎民謡愛好会の会長でもあります。民謡『山崎おどり』は『白根風甚句』の作者でもある高橋高威さん（新潟市在住）の作詞・作曲。笠原さんは東京のスタジオでレコーディングし、今年の三月にテープを完成させました。「ちょうどそのころ農道の開通式の話があり、『山崎おどり』に踊りをつけて民謡流しをすることになりました。振り仮名が考えたのか、いつのまにかできていました」と言う笠原さん。奥さんも民謡愛好会の会員です。同会は開通式のため、週三回の練習をしました。「昔は盛んに活動していた民謡愛好会ですが、ここ二十年間はあまり活動していませんでした。これを機に集まって、いろいろな祭りに出たい」と笠原さんは話しています。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。



カシは葉が太陽の光を反射して光るところから、縁起の良い木として好まれてきました。シラカシ、アラカシ、ウラジロカシ、アカカシ、ツクバネカシ、イチイカシ、ウバメカシなどの数種があり、葉の光り方の違いから、一般に金カシ、銀カシと呼ばれています。金カシは以前根岸にありましたが、現在は切られ、白根には見当たらなくなっていました。カシは中部以南に分布する、暖地性の樹木とされています。

古木老木の伝承

～ふるさとの木々～

カシ



ブナ科に属し、一本の木に何トンもの水を保ちます。材質は堅く、粘りがあってひびが入らず、丈夫で長持ちします。肌触りが良いため、生活用品のほかに昔は医療器具にも多く用いられていました。

カシの実を食べることもできます。実を流水に浸して渋味をとり、ゆでて乾かし皮をむきます。再び流水に浸した後、実を粉にし、米の粉を加えて餅にします。昔は老人や子供のおやつとされ、飢饉の時には餓死から人々の命を守りました。新葉の輝く六月が、カシの一番美しい時期です。

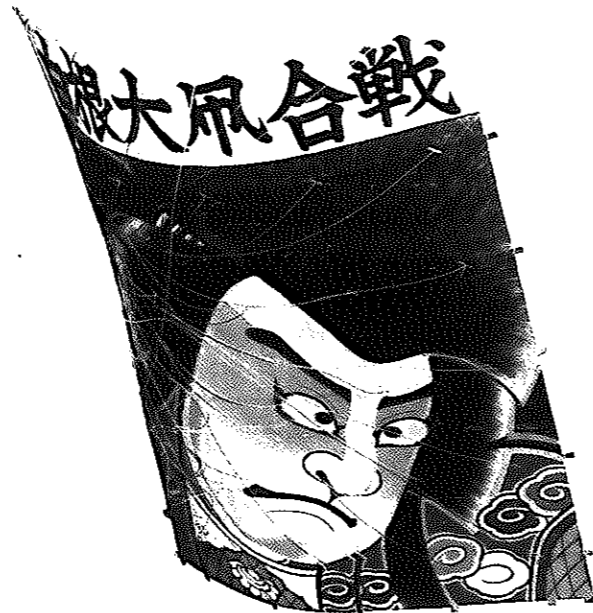
数字で見る市勢

※5月1日現在 ※()内は前月比

人口	40,483人(+24人)
男	19,808人(+14人)
女	20,675人(+10人)
世帯	10,714世帯(+30世帯)
出生	26人
死亡	27人
転入	159人
転出	138人

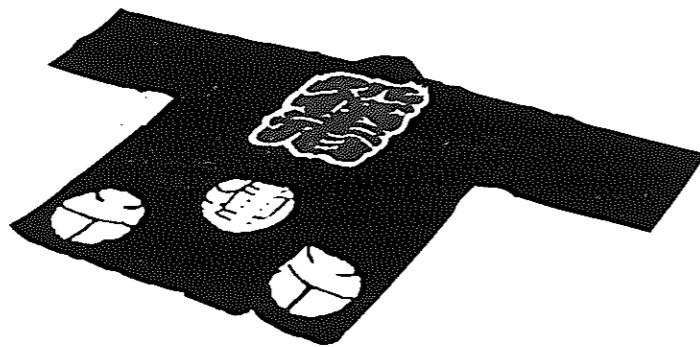
4月中

◎先月、村上市立岩船小学校の4年生が、市内の企業などの見学に訪れました。◎市役所には2つのグループが来庁。4～5人が1つのグループで電車やバスに乗ってやってきました。◎途中までは先生も引率してきたようですが、人に尋ねるなど地図を片手に自分たちで目的地を探すことも見学の1つ。探検学習なのだそうです。◎最近の小学生はたくましいです。(さ)



私たちの見た

アメリカ



市政クリップ
もうすぐ始まる介護保険
水質検査の結果
まちの話
お知らせ
みんなのページ
シリーズ・人

青少年海外ホームステイ
派遣事業研修レポート